

広報

もり 中部の森林

8月27日まで
募集中！

デイスカバー
農山漁村の宝
AWARD
～第10回選定～



写真：「ヒメオオクワガタ」
(飛騨署(天生グリーン・サポート・スタッフ)提供)

特集

・森林土木分野における「新技術・新工法」の技術プレゼンテーション
各地からの便り

- ・木曾ヒノキの森林で三者協定現地検討会を開催
- ・南アルプスの高山植物を守ろう！仙丈ヶ岳の防鹿柵設置作業 ほか

シリーズ

- ・森林官からの便り、私の森語り、中部の保護林、秘蔵写真・今は昔の林業

私の森語り「らいちょうの森」
東洋計器株式会社 会長 土田 泰秀



林野庁中部森林管理局



2023/No.233

森林土木分野における
「新技術・新工法」の
技術プレゼンテーション

【治山課・森林整備課】

中部森林管理局管内で実施している森林土木工事は、山間奥地の厳しい現場条件に加え、建設業の担い手不足や高齢化、建設業における働き方改革が本格化するなど、工事の安全性の向上や施工の省力化・効率化が今後の課題となっています。

このような中、令和五年度における当局的新たな取組として、六月三十日に「森林土木分野における『新技術・新工法』の技術プレゼンテーション」を開催しました。

この技術プレゼンテーションは、こうした課題の解決に資する新技術等について、テーマを設定のうえ募集を行い、応募いただいた企業から提案をいただくものです。

当局が募集したテーマは、「ICT」、「治山ダム等に関する新工法」及び「省力化・軽量化に資する工事用資材」とし、募集に当たつ

ては、局ホームページに掲載しました。

募集の結果、二十一社からの応募があったことから、プレゼンテーションは局大会議室と研修室の二会場による対面とWEB参加のハイブリッド形式で実施しました。また、林野庁業務課の企画官をはじめ、富山県、長野県、愛知県、(一社)長野林業土木協会、(一社)名古屋林業土木協会にオブザーバーとして参加していただきました。

各企業からのプレゼンテーションは、実演や動画による説明など工夫が凝らされており、特徴やメリット等について分かりやすく説明していただきました。説明を受けた参加者からは多くの質問が寄せられ、提案いただいた企業からは「このような機会を設けていただいたことは大変ありがたい」とのコメントをいただくなど、大変有意義なものとなりました。

提案いただいた内容は当局のみならず、他の森林管理局や都道府県等の民有林部局への展開も期待されることから、発表内容等につ

いては、局ホームページに掲載しますので多くの方にご覧いただきたいと思っています。

新技術・新工法 技術プレゼンテーション プログラム

第1会場 (大会議室)	金子工業株式会社 [治山工事特有の諸課題に対し、新技術・新工法・創意工夫で挑む]
	明治コンサルタント株式会社 [拡散レーザー変位計(Merex-D)]
	長姫調査設計株式会社 [最新のレーザー技術を使った測量・調査方法とICT施工・出来形管理]
	株式会社オプティム [OPTiM Geo Scan]等
	日本建設技術株式会社 [FWGウッドチップ工法]
	株式会社コシイレーザーピング [高耐久処理木製資材について]
	株式会社共生 [下半もたれ式ダブルウォール及びSSSフォームレス]
	シバタ工業株式会社 [流木等を捕捉する『流木ストッパー』]
	株式会社プロテックエンジニアリング [アーバンガード]
	株式会社長瀬土建 [屋根型作業道(欧州式)]
株式会社ライズ [カチオンフレーム工法(土留擁壁)]	
第2会場 (研修室)	日本植生株式会社 [生物多様性に配慮した緑化工法]
	日鉄建材株式会社 長野営業所 [鋼製自在枠・Geoベルト(plus)・テレスコドレンパイプ]
	株式会社 アドヴァンス [集水井補修工法(鋼製から鉄筋コンクリートへの更新工法)]
	三井化学産資株式会社 [路盤補強用三軸ジオグリッド「テンサー-TX」]
	日新産業株式会社 [イースターマット工法]
	前田工織株式会社 [フルボンリーズ・グリーンスラッガー・リバDEM工法]
	北陽建設株式会社 [クロスカバーネット工法及びハイブリッド型3次元測量]
	株式会社トーエス [斜面浸食防止表層土砂流出抑制対策工法(EPM)]
	アスザック株式会社 [クイックブロック及びポラメッシュ]
	国土防災技術株式会社 [しかボロン]



WEBでのプレゼンテーション



第2会場(研修室)の様子

木曾ヒノキの森林で
三者協定現地検討会を開催



【木曾森林ふれあい推進センター・

木曾森林管理署

六月十三日から十四日の二日間、木曾署管内の国有林において、「森林・林業及び木材利用に関する研究・技術開発等における連携と協力に関する協定」の現地検討会を開催しました。

この協定は、森林研究・整備機構森林総合研究所（以下「森林総研」、信州大学農学部及び中部森林管理局の三者が、それぞれ実施する研究、事業等において連携と協力をを行い、森林・林業、木材利用の課題を解決し、その成果の活用による地域の振興を目的としており、本検討会には関係者二十名が参加しました。

初日は、木曾郡上松町の赤沢自然休養林において、現在の木曾ヒノキ林が成立する前の林分構造を推定するため、森林総研と木曾森林ふれあい推進センターで調査・分析を行い、樹齡が千年程度と推定された木曾ヒノキの古い根株を



古い根株を確認しながらの意見交換

確認しながら、今後の調査・分析に向けて意見交換を行いました。

二日目は、森林総研と木曾署が木曾ヒノキの天然更新技術の確立に向けて共同調査を行っている木曾郡王滝村三浦国有林の試験地において、天然更新の妨げになるササの処理方法とヒノキの稚樹の発育状況を確認し、天然更新技術について検討しました。

四年ぶりの開催となりましたが、相互に研究成果の理解を深めることができました。

今後も三者の連携強化を図り、地域の森林・林業等の発展に向けて取り組んでいきたいと考えています。

学生の現地実習の場となる
実験林や試験地を案内



【森林技術・支援センター、

岐阜森林管理署

六月二十七日、岐阜署管内の乗政及び小川長洞国有林において岐阜県立森林文化アカデミーのエンジニア科二年生の学生十九名の現地実習が行われ、当支援センター及び岐阜署の職員が試験地や実験林等を案内しました。

乗政国有林の「ヒノキ長伐期施業林」では、岐阜署の職員から平成二十八年度に製品生産請負事業で間伐材を搬出したこと、林齡が百年を超えるヒノキ人工林の間伐や木材の販売について説明しました。

この箇所では、上部の樹冠密度や林床の下層植生の状況を確認し、今後の施業方法について考えてもらいました。学生からは「しばらくは伐採せず、下層植生が回復するのを待つ」「二十年後くらいにヒノキの径級等をみて判断し、皆伐を行う」等の意見が出されました。



ヒノキ長伐期施業林の見学状況

小川長洞国有林の「ヒノキ間伐実験林」では、間伐率の異なる試験地を見学し、今後の伐採方法等について学生同士の意見交換が行われました。木材の生産や利用など、専攻分野に応じた様々な意見が出される中、当支援センターの職員が今後の施業方針について説明し、また、民有林ではあまり見ることが出来ない温帯性針葉樹の天然林も案内しました。

湿度が高く、蒸し暑い中での現地実習でしたが、知識を高める機会になったと思います。今後も学校等からの要請に応じ、学びの場としての国有林の案内や情報提供に努めていきたいと考えています。

今年、平成二十六年の御嶽山噴火災害から九年目となります。昨年八月には、公園に隣接する御嶽山王滝口の七合目、現在の王滝登山口に長野県立御嶽山ビジターセンター「やまテラス王滝」が設置され、活火山である御嶽山に登る前に規制等を確認しながら登山計画書を提出する場として、また、御嶽山の魅力が学べる施設とし

備活動が行われました。同支部は、長野県木曾郡、岐阜県中津川市の土木・林業の事業者（十一社）で構成されており、社会貢献活動として、毎年、木曾地域の国有林に所在するレクリエーションの森を主体に環境美化の奉仕活動を行っています。

六月十九日、木曾郡王滝村御嶽国有林のレクリエーションの森である「木曾御嶽岳自然休養林」の田ノ原天然公園（以下「公園」）において、長野林業土木協会木曾支部主催のボランティアによる遊歩道整備活動が行われました。

レクリエーションの森での
ボランティア活動



作業を終えて笑顔での集合写真

て、多くの方に利用されています。公園も快適に利用していただくため、協会員に加えて、王滝村や当署の職員等、総勢約四十名で老朽化した木製遊歩道の土台、敷板等の撤去作業を行いました。車両が入れない場所での作業であり、朽ちて水分を含んだ土台や敷板は予想以上に重く、細かい物は土のう袋に入れ、大きな物は肩に担いでの運搬に苦労しながら、無事に作業を終えました。

赤沢自然休養林の来園者は、多い時には年間十万人程でしたが、コロナ禍の影響もあり、昨年は四万人程に減ってしまいました。しかし、今年は制限がなくなっただけでなく、観光バスやインバウンドのお客様が増えています。そのため、上松町観光協会から「ここ数年、使用頻度が減っていた第五駐車場をきれいにしてもらえたらありがたい」という要望を受け、駐車場の環境整備を行いました。

六月二十九日には、木曾郡上松町小川入国有林の「赤沢自然休養林」において、長野国有林森林整備協会木曾支部の造林部会と生産部会合同による地域貢献活動が行われました。同支部の造林部会は、長野県内の国有林の造林事業を行う林業事業者（七社）、生産部会は、長野県内の国有林の生産事業を行う林業事業者（六社）で構成されており、これまで造林部会による活動が行われてきましたが、今年は生産部会も加わり、総勢二十名による活動となりました。



ボランティア作業の様子

当日は、刈払機で駐車場や歩道に張り出した樹木の枝切り、駐車場の舗装の隙間から生えてきた草の刈り払い、駐車場法面の草刈りなどを手分けして行いました。切った枝は林内に整理し、駐車場に散らばった枝や草はプロアールで清掃するなど、来園者が気持ちよく使用できる状態にしました。当署では、今後も地元自治体や関係団体等と連携・協力し、山村地域の振興に努めてまいります。

有害鳥獣捕獲の
職場内研修を実施



【愛知森林管理事務所】

六月二十一日、当所会議室と北設楽郡設楽町の段戸国国有林において、有害鳥獣捕獲の職場内研修を実施し、職員十八名が参加しました。

ニホンジカ等の増加による植栽木の被害等により、当所管内においても造林地育成への負担が増加しており、平成三十年から有害鳥獣の捕獲に取り組んでいます。鳥獣による農林水産業や生態系に係る被害の防止を図ることを目的として、地元設楽町猟友会への委託及び協定による捕獲のほか、数年前からは当所職員が国有林野内で有害鳥獣を捕獲する「職員捕獲」を実施しています。

職員捕獲を実施するための職場内研修は、これまで狩猟に精通した職員が講師となり、捕獲業務に従事する予定の職員への説明等を行ってきましたが、近年の鳥獣行政を学ぶため、今回は愛知県新城設楽振興事務所の加藤主任を講師



段戸国国有林での実技講習の様子

にお迎えし、法制度を中心に分かりやすくご講義いただきました。続いて、くくりワナの設置や動画によるニホンジカの特性等について学んだ後、段戸国国有林に移動し、くくりワナ設置の実技講習を実施しました。今後、捕獲許可を得て、職員捕獲に取り組むこととなりますが、くくりワナを設置する場所の選定や手法等、様々な意見を取り入れながら取り組んでいきたいと思えます。

鳥獣保護及び狩猟に関する
講習会を開催



【南信森林管理署】

六月二十八日、鳥獣保護及び狩猟に関する講習会を開催し、当署職員と木曾森林ふれあい推進センターの職員、総勢二十四名が参加しました。

当署管内の国有林では、職員捕獲をはじめ、くくりワナ(以下「ワナ」)の貸出や地元猟友会との協定、各種協議会などの協力、「ついで見回り・通報」の取組により、昨年度は令和三年度の一、八五五頭を七九二頭上回る、二、六四七頭を捕獲しました。

本年度も鳥獣の保護や狩猟に関する知識の向上を図るとともに、獣害対策に専門的な知識を有する職員の育成に資することを目的に講習会を企画し、午前は上伊那地域振興局及び南信州地域振興局の鳥獣対策専門員を講師に、法令や鳥獣の生態、特性について学び、午後は手良沢山国有林において、地元伊那市猟友会員三名より、ワナの仕組み、設置場所の選定、設



地元猟友会から説明を受ける職員

置する際の注意事項、獣がワナに掛かった後の対応等の説明を受けた後、三班に分かれ実際にワナの設置を行いました。

今回初めてワナを設置した職員からは、「女性でもコツをつかめば割と簡単に設置できる」「作動したワナが思ったよりも外れないことに驚いた」「ワナを設置する穴が浅いと感じ、その分、カモフラージュに力を入れた」などの声がありました。

講義や実技で学んだことを活かし、引き続き、地元猟友会、関係機関及び各協議会等と連携し、積極的に有害鳥獣被害対策に取り組みます。